

2025年3月期 通期決算説明会

アステリア株式会社
(東証プライム:3853)

2025年5月14日





会社概要

アステリア株式会社



アステリア株式会社

- ◆本社事業 ✓ **企業向けソフトウェアメーカー**
- ◆子会社 ✓ AI研究開発(日本)
✓ ソフトウェア開発(シンガポール、中国)
✓ 企業投資(米国)

- ◆株式市場 **東証プライム(3853)**
- ◆設立 **1998年9月**
- ◆資本金 **22億7,534万円**
- ◆従業員数 **139名(連結)**

(2025年3月31日現在)

ソフト業界で
ノーコード
ブロックチェーン
ウェルビーイング
など先進分野を
牽引!!



サイボウズ等と2022年に発足

ノーコード推進協会



ブロックチェーン推進協会



国内最大のブロックチェーン団体



CWO(最高ウェルビーイング
責任者)を新設



継続的に変化に迫られる企業でのIT活用

TNFD開示・GX2040ビジョン

2025年の崖・デジタル行財政改革

※1:経済産業省:IT人材需給に関する調査 調査報告書

※2:デジタル田園都市構想総合戦略2023改訂版

2024年問題(残業規制)

11月:フリーランス新法施行

会社法改正:バーチャル総会の規制緩和

IT人材79万人不足※1

1月:電子帳簿保存の義務化

4月:労働安全衛生規則改定

4月:公益信託法改正

1,500地方自治体がデジタル実装※2

2024年

トランプ2.0

2025年

2026年

2027年~

クラウド・web3

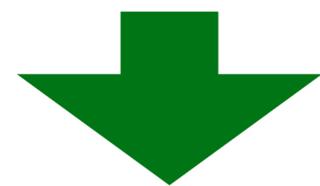
生成AI・AIエージェント・AGI

SAP ERP 6.0 (EhP1~5) サポート終了

人手不足・少子高齢化

一方で課題となるIT人材不足

2030年に
最大**79万人**不足
最小**41万人**不足



IT人材でなくてもシステム・アプリを作ることができる

ノーコード

<2> IT人材需給の将来予測

IT人材の「不足規模」に関する推計結果

- IT関連産業の産業人口に関する将来推計（マクロ推計）の一環として、人材の不足状況や今後の見通しに関するアンケート調査結果に基づき、現在及び将来の人材不足数に関する推計も実施。
- マクロ推計によれば、**2015年時点で約17万人のIT人材が不足している**という結果になった。さらに、前頁で示されたとおり、今後IT人材の供給力が低下するにもかかわらず、ITニーズの拡大によってIT市場は今後も拡大を続けることが見込まれるため、IT人材不足は今後ますます深刻化し、**2030年には、（中位シナリオの場合で）約59万人程度まで人材の不足規模が拡大する**との推計結果が得られた。

- 2 今後のIT人材の不足規模
- IT人材の不足規模に関する予測
- 2015年の人材不足規模：約17万人
- 2030年の人材不足規模：約59万人（中位シナリオ）
⇒ IT人材不足は、今後ますます深刻化



出典：経済産業省「IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」2016年

主力製品: データ連携ツール「ASTERIA Warp」

◆「データ連携」のスタンダード



◆18年連続市場シェアNo.1



ノーコードでのデータ連携が
11,000社以上で導入済み

出典: テクノ・システム・リサーチ
「2024年 ソフトウェアマーケティング総覧 EAI/ESB市場編」

Warpパートナー社数が100社を突破

◆販売パートナー (AMP,ASP) を通じ100%間接販売

充実したパートナー連携
プログラム

営業支援



情報提供



マーケティング
支援



技術支援



マスターパートナー(AMP)

ライセンス版Warpの販売とシステム構築

Panasonic

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社

株式会社 日立ソリューションズ

SCSK

33社

RICOH

NEC

FUJITSU

富士通 Japan株式会社

TIS

TIS INTEC Group

サブスクパートナー(ASP)

サブスク版Coreの販売と導入支援

CTC SP

81社

アスエネ

NICS

systema

日立システムズパワーサービス

テクニカルパートナー(ATP)

システム構築支援やアダプターの開発

ISI Software
Human Solution for IT Problem

tcdi

24社

DCR

第一コンピュータリソース



Suzuyo
shinwart

QDTS
Delivering Tomorrow's Solutions

Cypress Solutions

※ロゴはパートナー例

決算概要

2025年3月期 通期決算
(国際会計基準 = IFRS)

決算概要

2025年3月期 通期決算
(国際会計基準 = IFRS)

ギアシフト完了

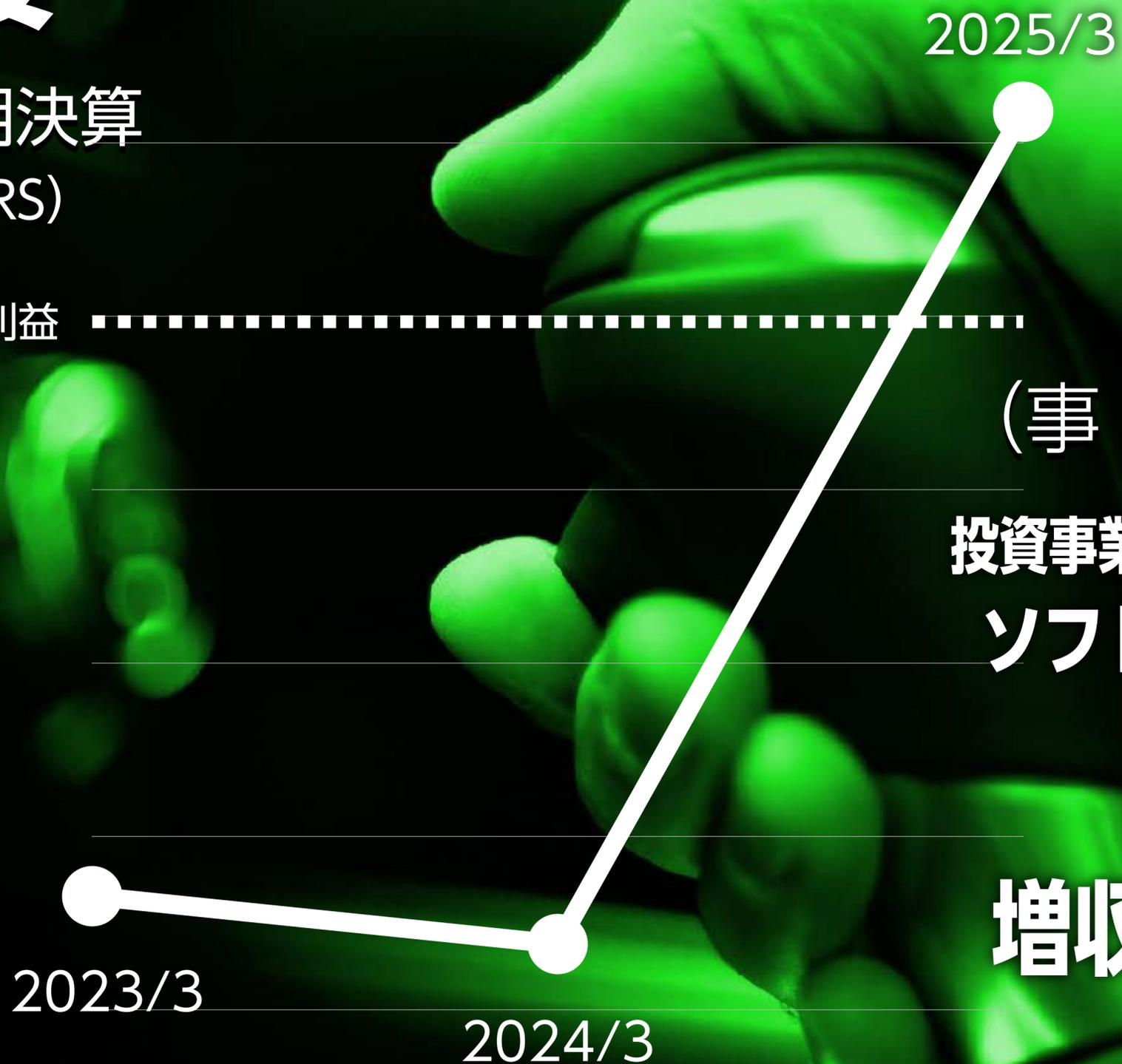
(事業構造改革)

Asteria[☆]

決算概要

2025年3月期 通期決算
(国際会計基準 = IFRS)

当期利益



(事業構造改革)

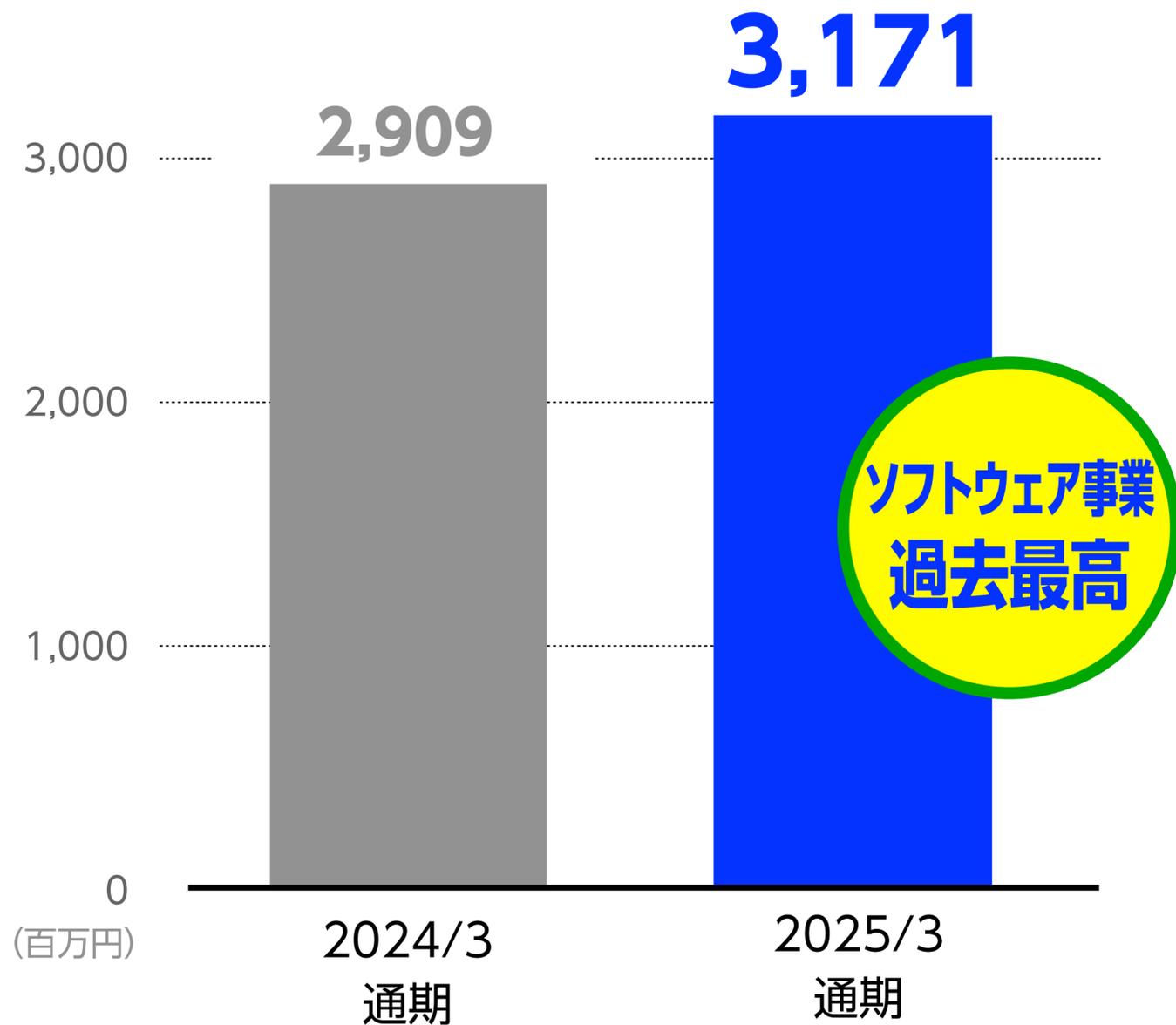
投資事業とデザイン事業を整理し
ソフトウェア事業に集中



増収・増益・増配

ソフトウェア事業が過去最高の売上

売上収益

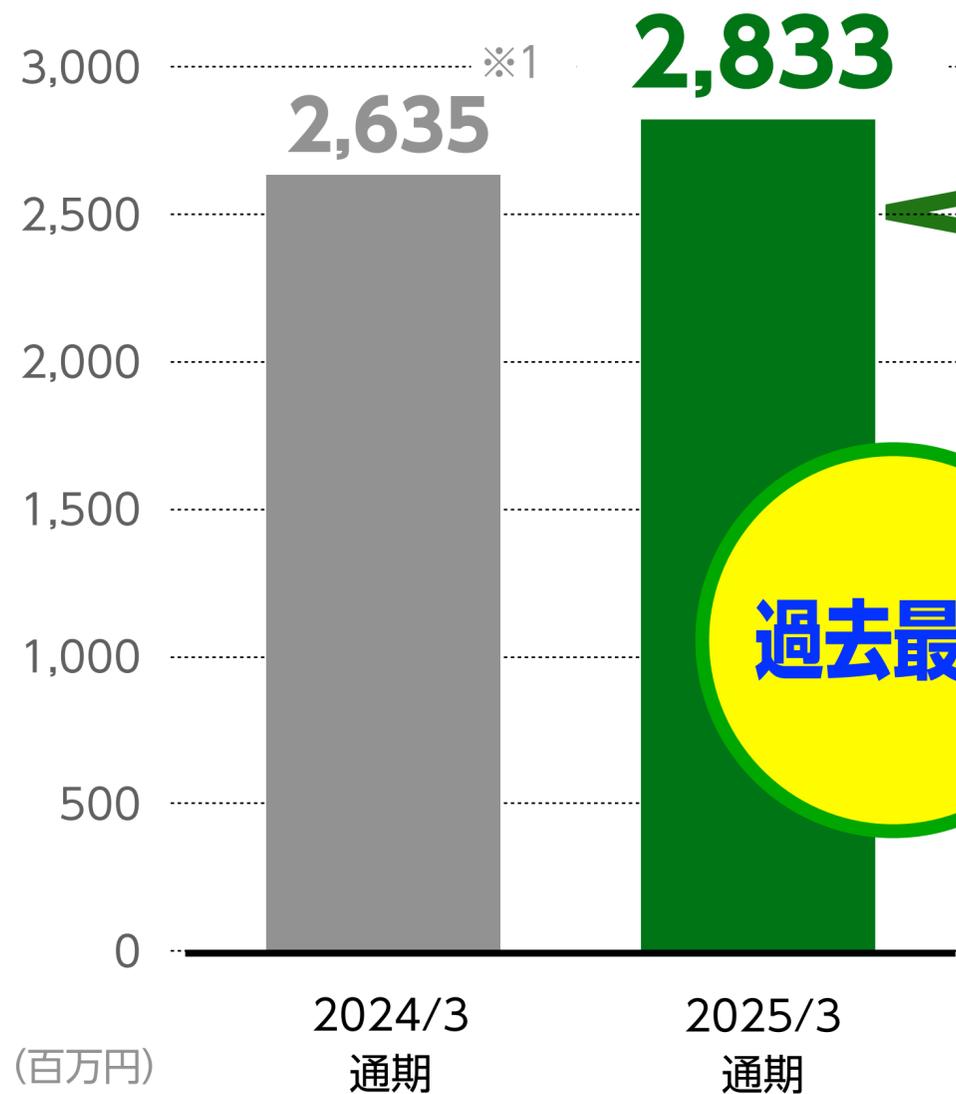


9.0%増収 (前期比)
過去最高の31.7億円

- ✓ **Warp売上: 27億円超**
ライセンス **16%増収**
サブスク **14%増収**
- ✓ **Platio売上: 1.6億円超**
サブスク **36%増収**

過去最高の売上総利益とEBITDA ※2

売上総利益(粗利)

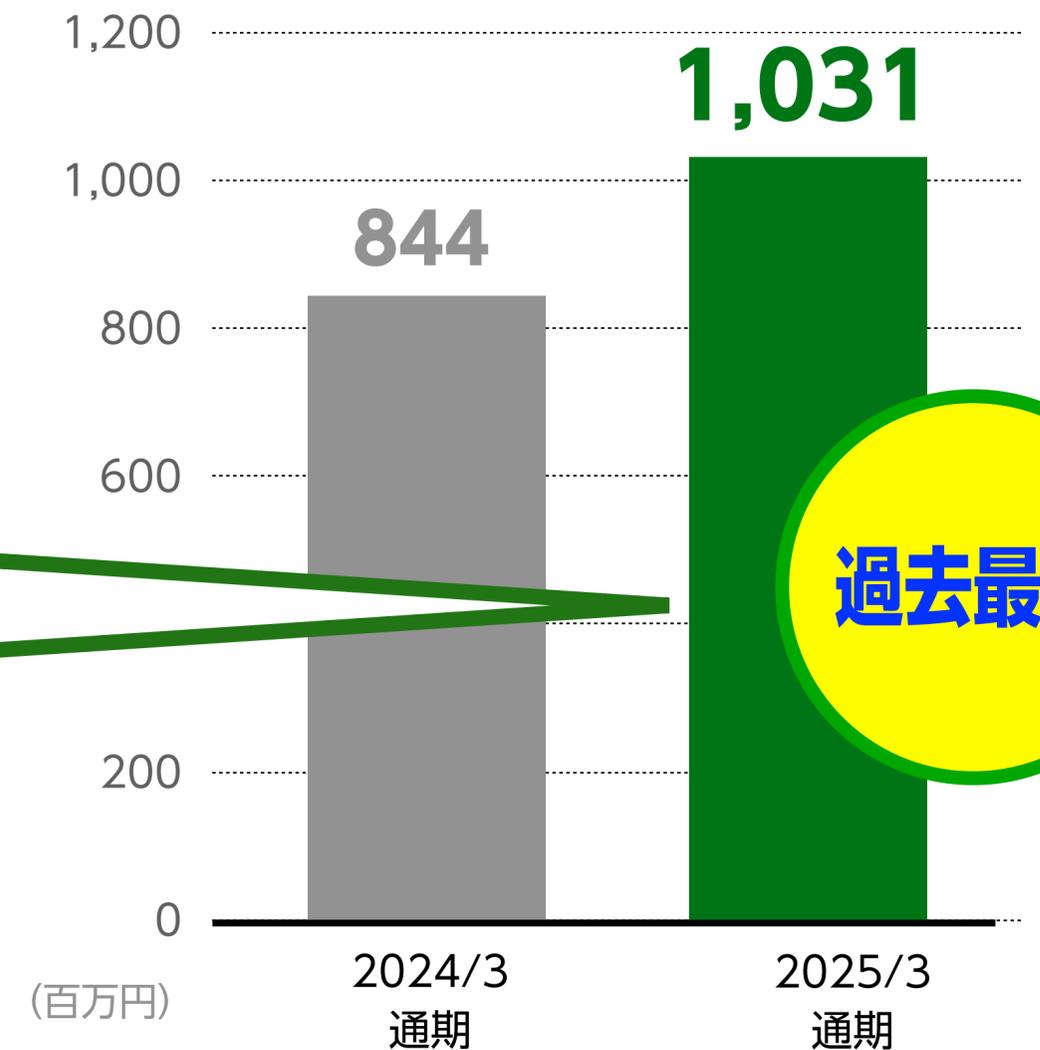


粗利率 **89%**
前期比 **7.5%増**

EBITDA率 **33%**
前期比 **22.1%増**

過去最高

調整後EBITDA ※2



過去最高

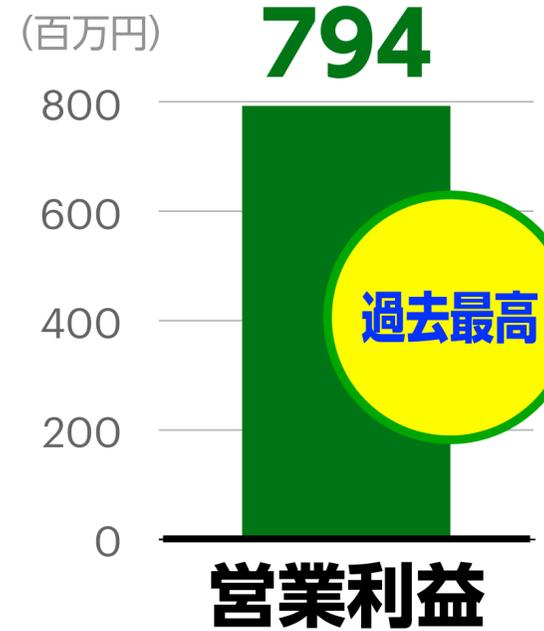
※1 This Place売却(2024年3月)により、前年同期はソフトウェア事業に国内デザイン事業(非継続)が加わった数値

※2 調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ± 調整項目(のれん減損、未実現買収対価、投資事業にかかる未実現評価損益等)

セグメント別の営業利益と連結営業利益

ソフトウェア セグメント

各製品の
着実な成長が寄与



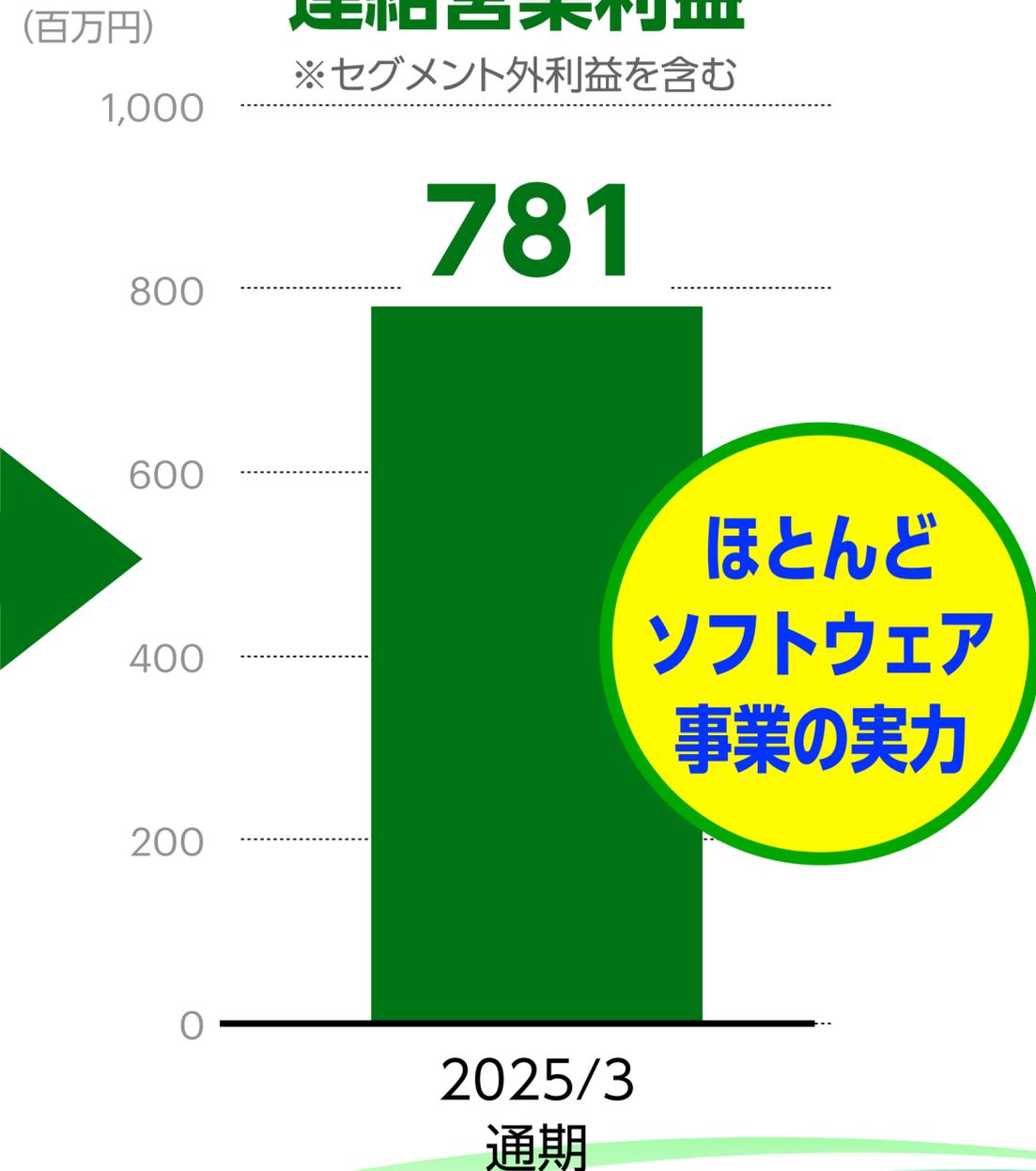
投資 セグメント

上期中に
Gorilla株式を
売却完了

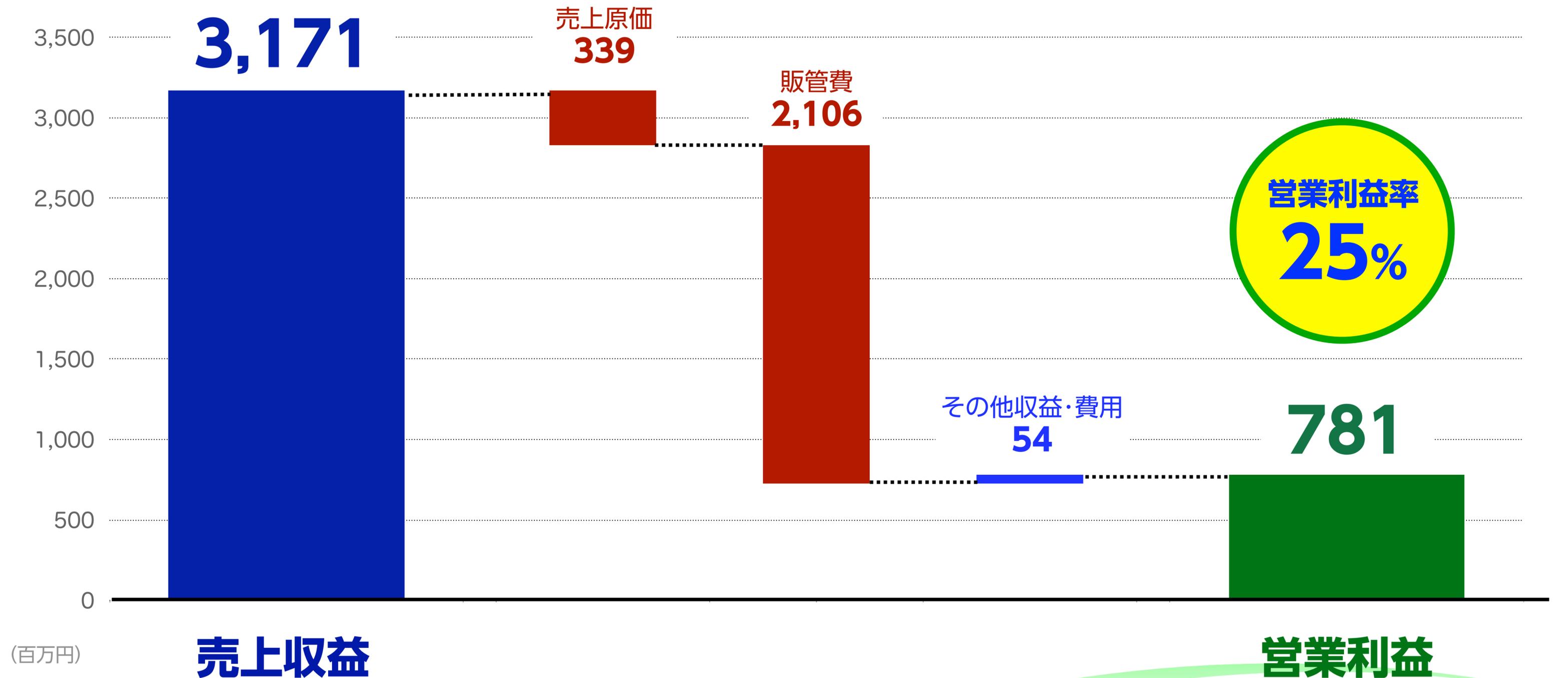


連結営業利益

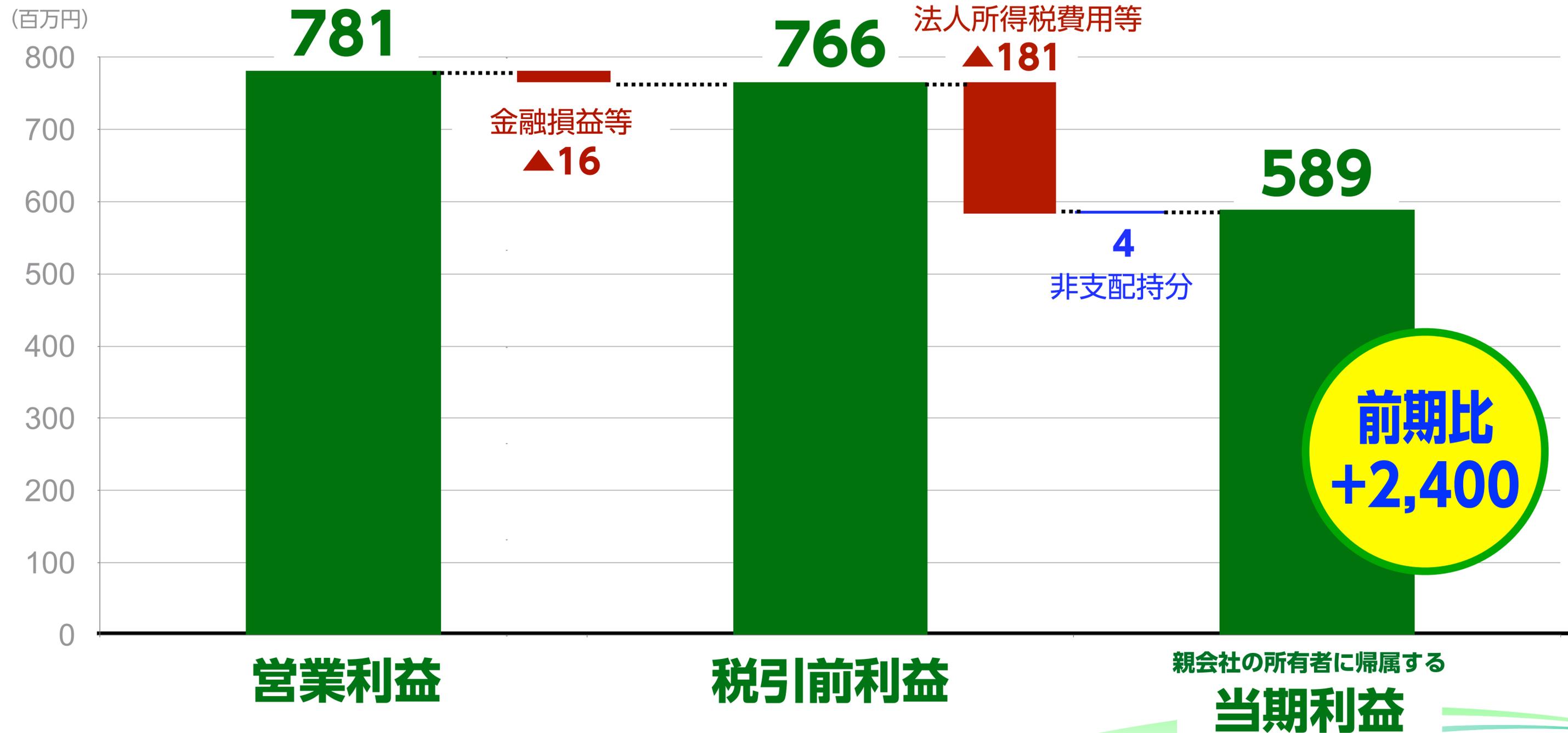
※セグメント外利益を含む



連結：売上収益から営業利益まで



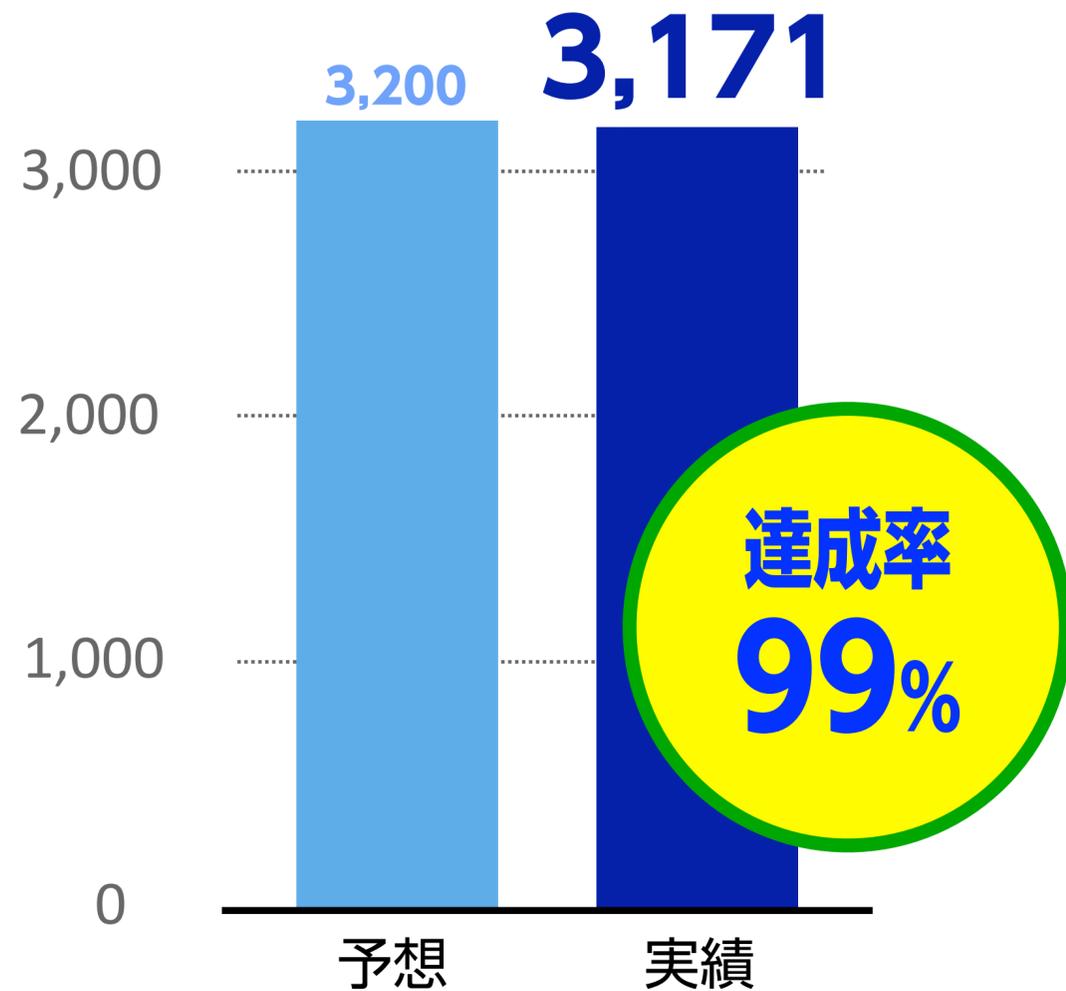
連結：営業利益/税引前利益/当期利益 (親会社の所有者に帰属する)



業績予想と通期業績の比較

売上収益

(単位：百万円)

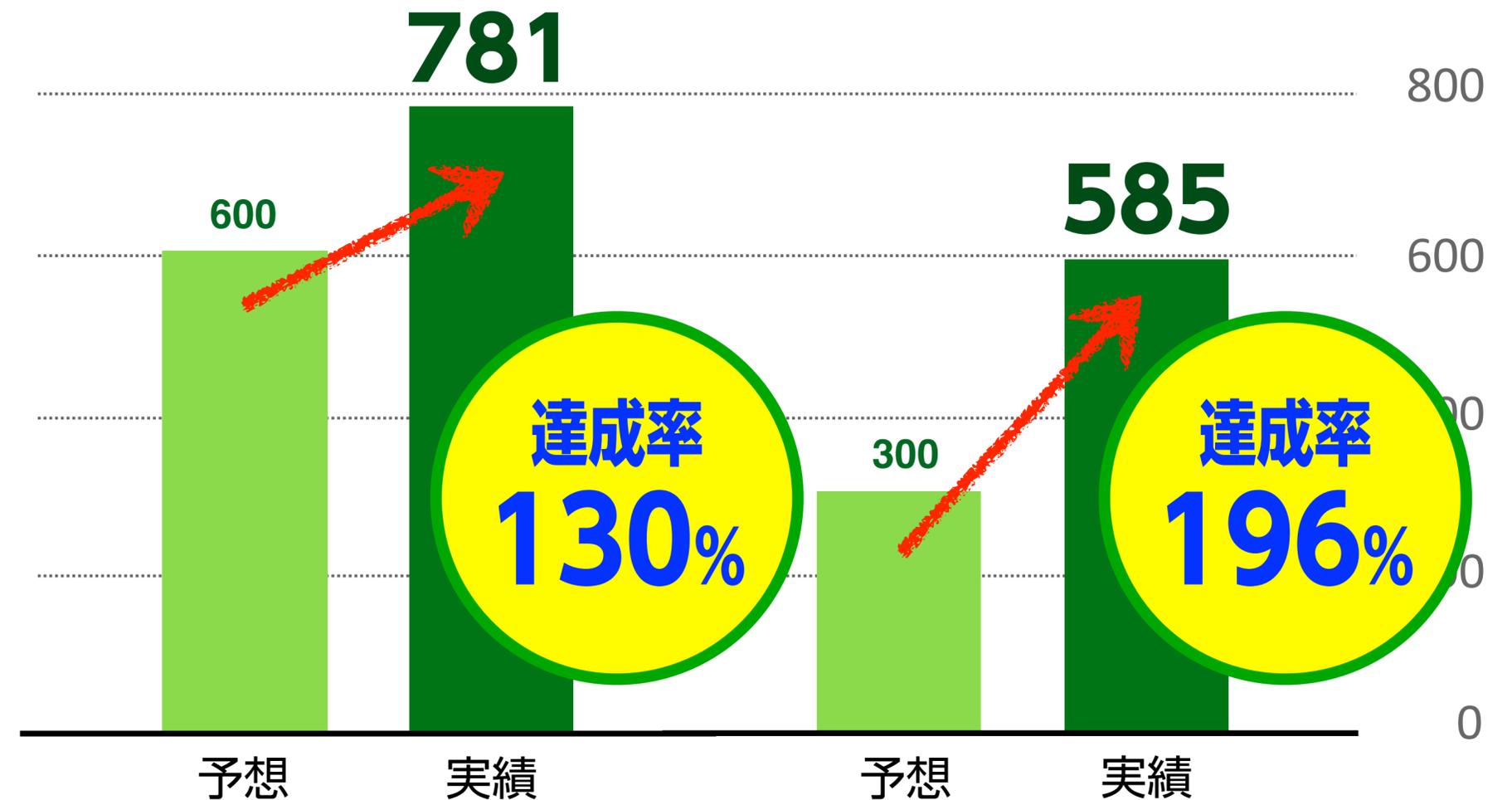


営業利益

親会社の所有者に帰属する

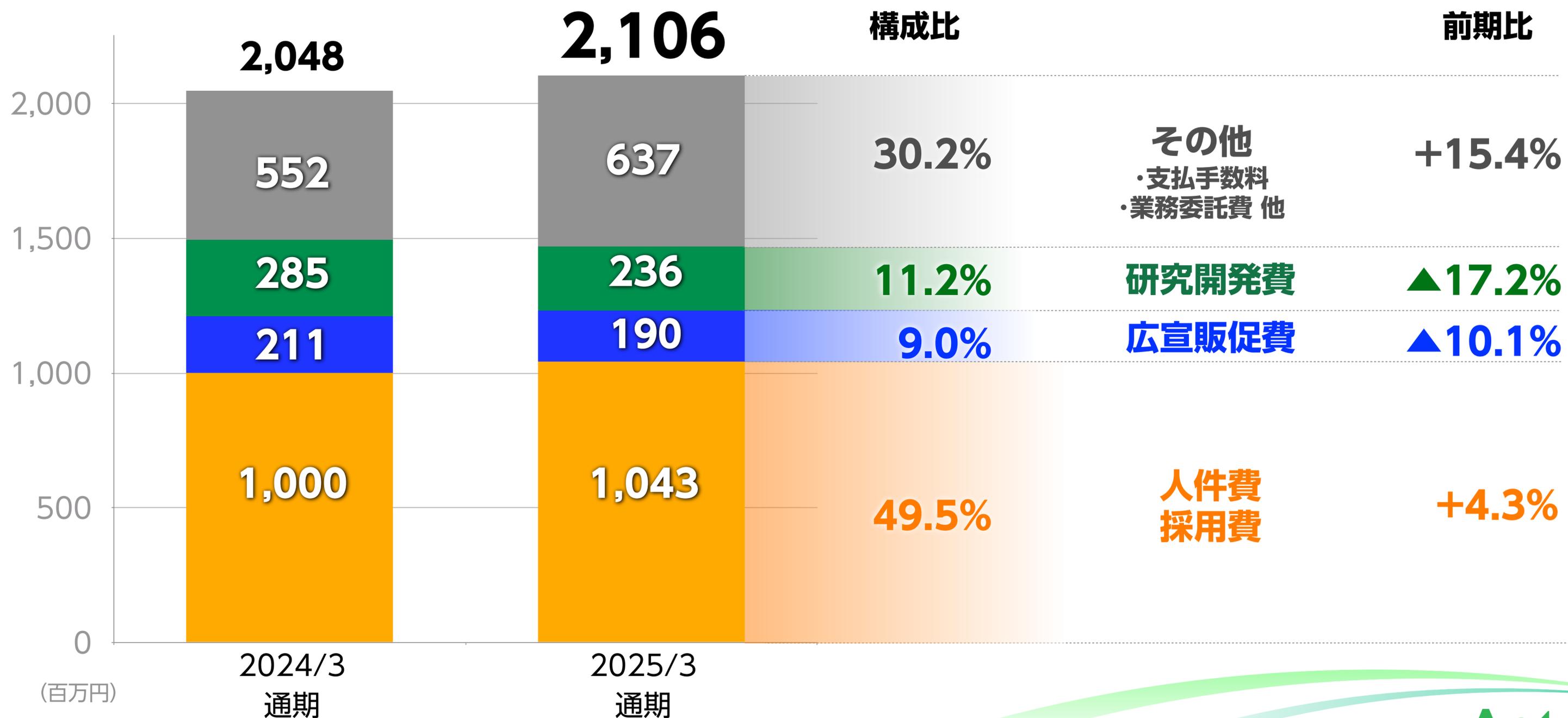
当期利益

(単位：百万円)



販売管理費の推移(前期比)

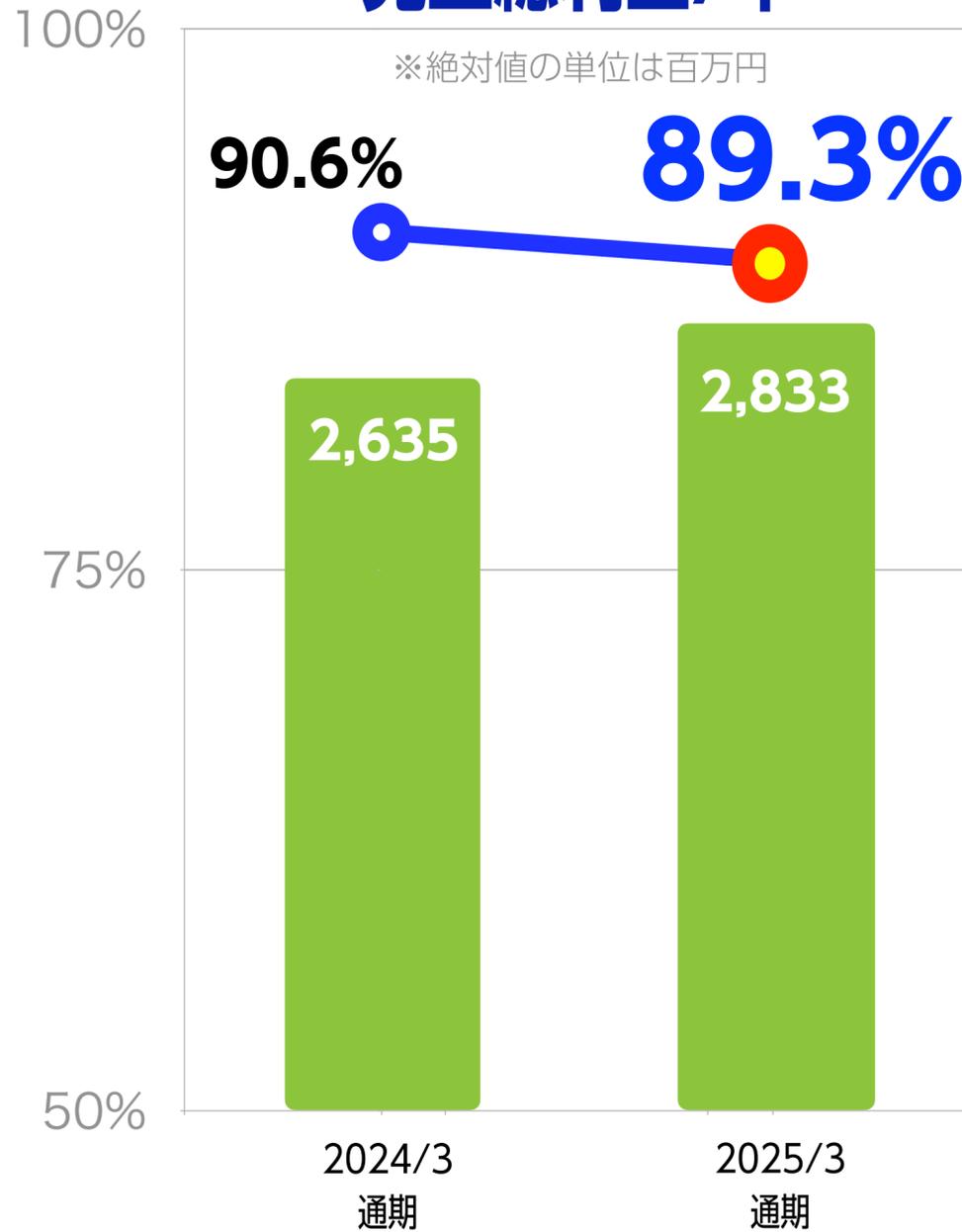
◆ 売上収益増でも販管費は効率化し利益に貢献



主な経営指標の推移

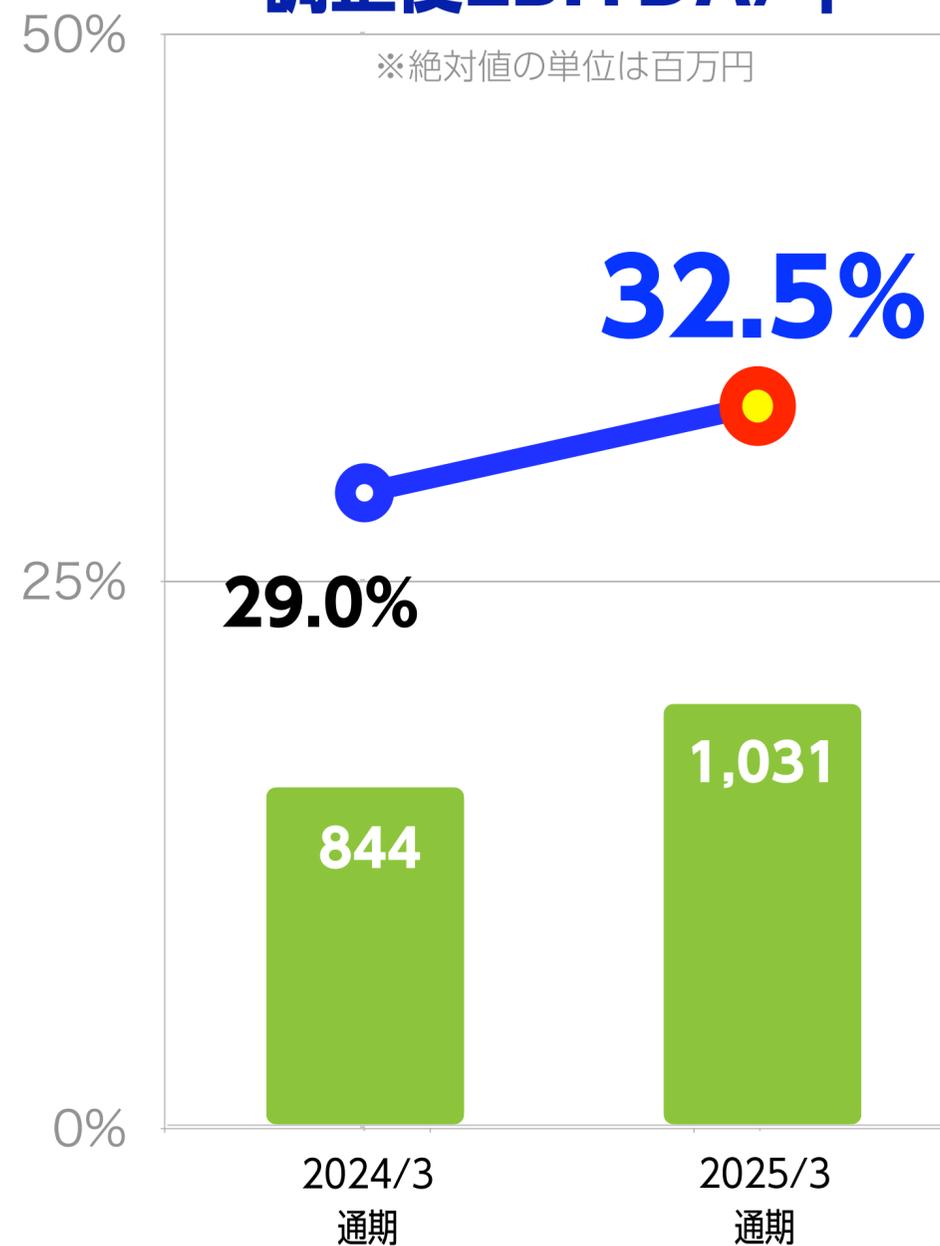
売上総利益/率

※絶対値の単位は百万円



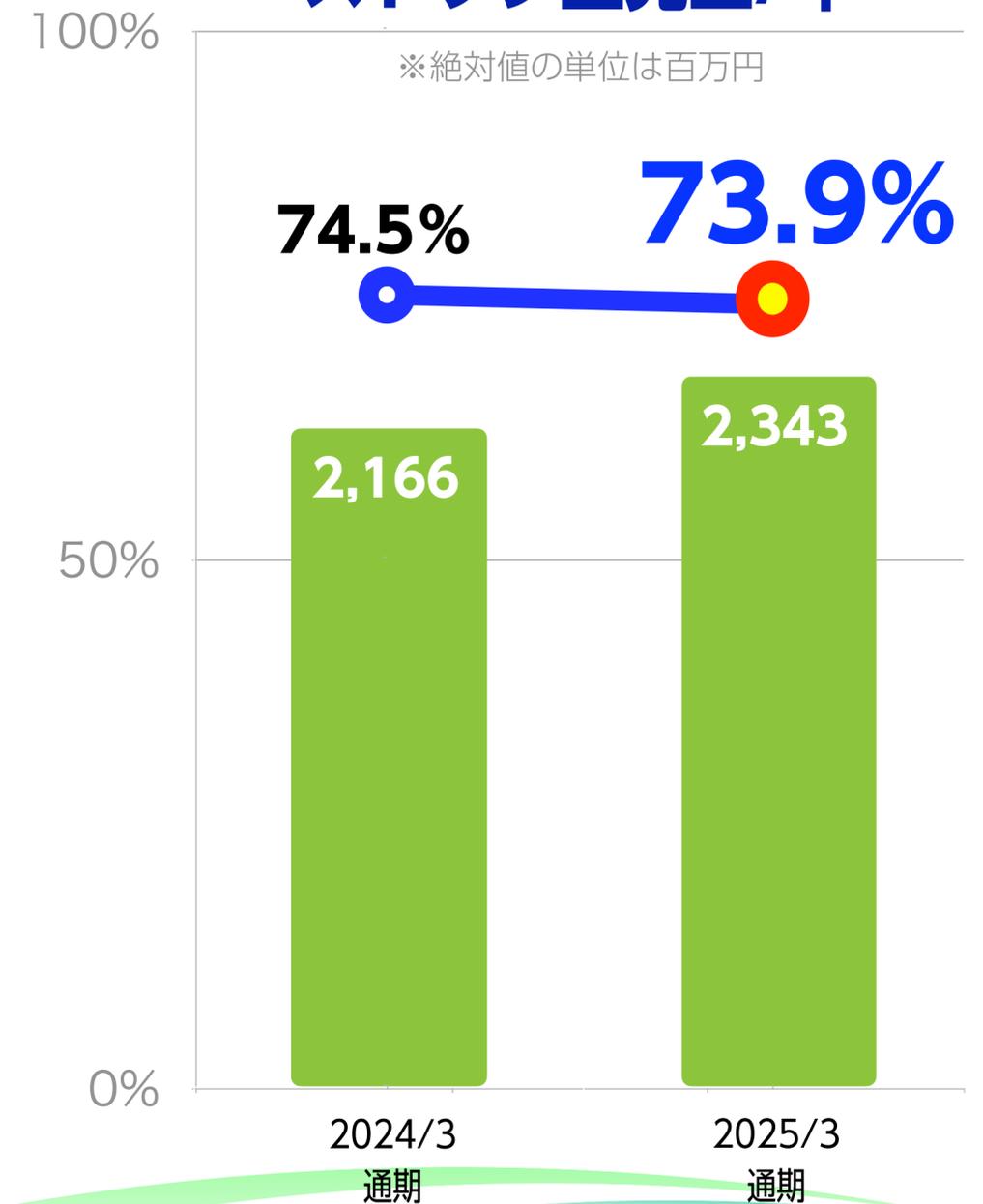
調整後EBITDA/率

※絶対値の単位は百万円



ストック型売上/率

※絶対値の単位は百万円



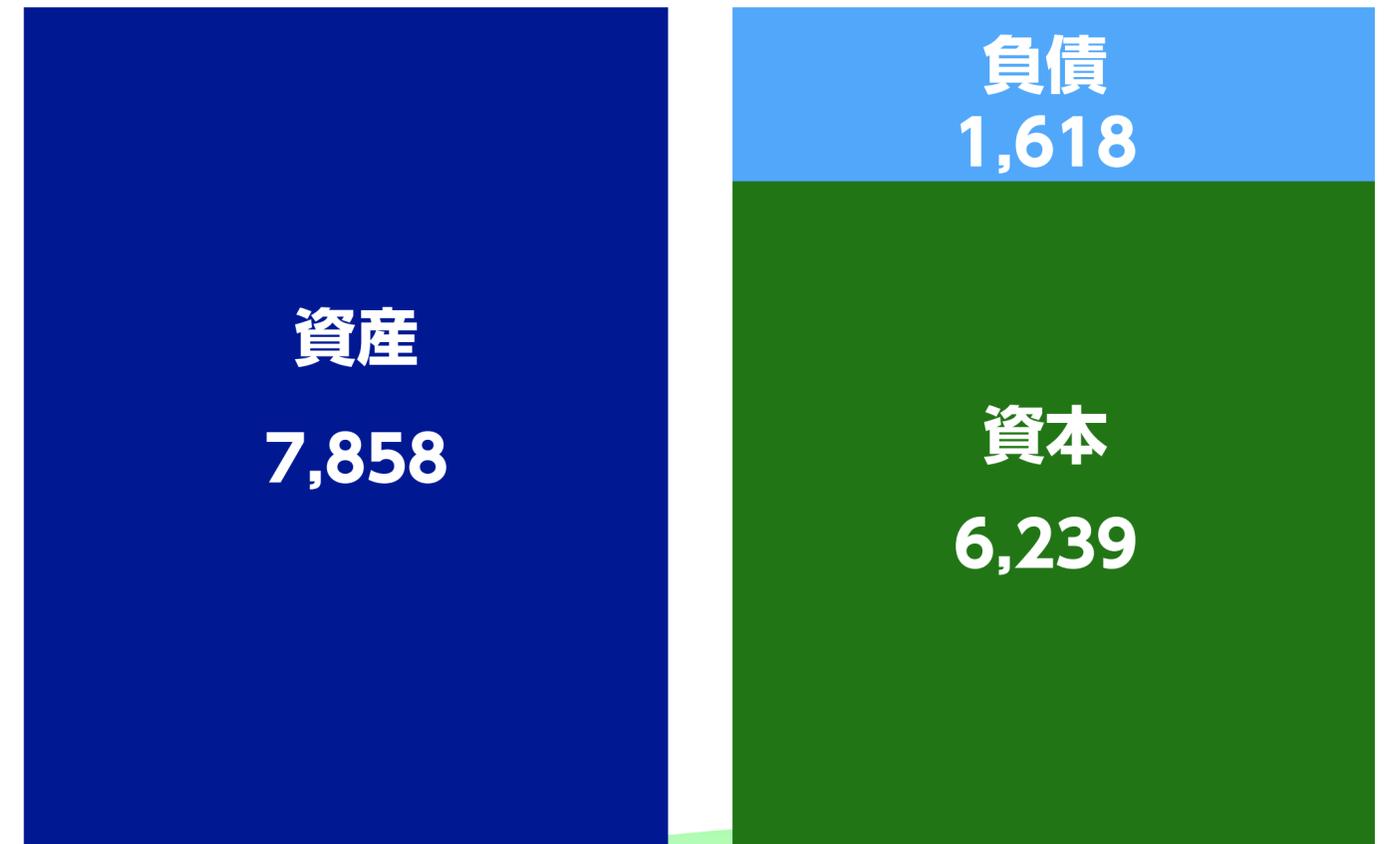
財政状態計算書 (2025年3月末現在)

◆ 健全な財務状況とキャッシュ・フローを継続

	2024年3月末	2025年3月末	増減	
資産の部	現預金等	1,731	2,814	1,083
	営業債権	177	244	67
	その他流動資産	598	66	▲ 532
	有形固定資産	938	841	▲ 97
	のれん	0	0	0
	無形資産	241	317	76
	投資等その他	3,901	3,576	▲ 325
	資産合計	7,587	7,858	271
負債の部	借入金	243	100	▲ 143
	営業債務	113	100	▲ 13
	未払法人所得税等	0	155	155
	その他流動負債	892	952	59
	長期借入金	215	0	▲ 215
	その他非流動負債	367	311	▲ 56
負債合計	1,830	1,618	▲ 212	
資本の部	株主資本	4,835	5,412	577
	その他資本の構成要素	747	693	▲ 54
	非支配持分	175	134	▲ 40
	資本合計	5,757	6,239	483

自己資本比率

79%



アステリア (3853) 通期まとめ

- ✓ **ソフトウェア事業が9%増で売上31億円超を記録**
- ✓ **営業利益は7.8億円→ソフトウェア実力として最高益**
- ✓ **期末配当を上方修正した予想から再び上方修正**
- ✓ **新年度業績&配当予想→売上、利益、配当全て増額**



2025年3月期 通期決算説明会

お問い合わせ:03-5718-1655



LINEによるIRニュース

本説明会及び説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なる場合がありますことをご承知おきください。

(証券コード：3853)





参考資料

専門用語の解説

AMP (Asteria Master Partner)	ASTERIA Warp のライセンス版の販売を手掛ける販売代理店(パートナー)
API (Application Programming Interface)	システムやクラウドサービスなどを相互に接続するためのインターフェース。接続するためにはプログラムが必要になるが、ASTERIA Warpが提供している多様なアダプターを利用すると他のサービスとの連携が手軽に可能。
ASP (Asteria Subscription Partner)	CoreなどのASTERIA Warpのサブスクリプション版、およびPlatioの販売を手掛ける販売代理店(パートナー)
ATP (Asteria Technical Partner)	ASTERIA Warpの構築支援や専用アダプター開発などを担うテクニカルパートナー
BIツール (Business Intelligence tools)	ビジネスインテリジェンスツール。様々な業務システムの処理において蓄積されたデータ(情報資産)から、必要な情報を集約・分析し、ビジネスの意思決定に活用できるようにする見える化ツール。
DX (Digital Transformation)	デジタル技術やサービスによってビジネスをより良い方向に変革すること。
EAI/ESB	企業データ連携=Enterprise Application Integration / Enterprise Service Busの略。ASTERIA Warpが提供しているサービスカテゴリーの名称。
ERP (Enterprise Resources Planning)	企業の基幹系業務を統合し、人やお金、モノや情報などのデータを一元管理し、総合的かつ合理的な経営判断を行っていくためのシステム

専門用語の解説

IaaS (Infrastructure as a Service)	サーバーやCPUなどシステムの構築に必要なハードウェアやインフラを提供するサービス。
iPaaS (Integration Platform as a Service)	複数のクラウド環境上に分散している異なるサービスやアプリケーション同士を連携・管理するためのクラウドサービス。
ISV (Independent Software Vendor)	独立系ソフトウェアベンダー。パッケージソフトの開発、販売をする企業。
NFT (Non-Fungible Token)	非代替性トークンの略。ブロックチェーン技術を用いて複製・偽造の不可能にした唯一無二のデジタルデータ。
SAP2027年問題	全社の経営資源を一元管理するERP製品でトップシェアの「SAP ERP」の保守サポートが2027年末に終了することに伴い、SAP導入企業において対応が迫られていること。
SaaS (Software as a Service)	サービス提供者側で稼働しているソフトウェアをネットワークを経由して利用できるサービス。
Sler	システムインテグレーターの略。システム開発や保守などの受託開発(ビジネス)を担うIT企業の業態。
SMB (Small Medium Business)	中堅・中小企業を指す。

専門用語の解説

RPA (Robotic Process Automation)	ソフトウェアロボットにより人間が手動で実施していた業務プロセスを自動化する仕組み
web3	インターネットの新たな形を表す概念。ブロックチェーンを基盤とした次世代の分散型(非中央集権型)インターネットの総称。「Web3.0(ウェブサンテンゼロ)」とも呼ばれる。
2024年問題	働き方改革関連法の施行が猶予されていた物流・建設・医療業界に対する残業規制が、2024年4月に施行されること。これらの業界は全体的にIT化が遅れていることから、DXの余地が多く残されている。
エッジ処理	端末内の処理で完結するエッジコンピューティング技術によって、クラウド上にデータをアップロードすることなく手元のコンピュータ端末だけで処理すること。
サインアップ型	顧客自らが登録/契約する販売形態。販売代理店などを介さないメーカーによる直接販売。
サブスクリプション (Subscription)	商品やサービスを月額(年額)課金で提供する形態。一括支払い(買い切り)となるライセンス版とは対称的に、利用料金が継続的に計上されるので、サブスクリプションの販売比率が高まることで業績の安定化が図れる。
自律・分散・協調	階層・規律・統制型のトラディショナルな組織形態ではなく、必要に応じて専門家がつながる自立した組織。
ステーブルコイン	価格変動を抑制し、決済手段としての実用性を高めた暗号資産。

専門用語の解説

ストック型	継続的に収益が入るビジネスモデル。アステリアでは、サブスクリプション型の製品やASTERIA Warpのサポートがストック型ビジネスに該当する。
生成AI	「ジェネレーティブAI (Generative AI)」とも呼ばれるAI (人工知能) の一種。AIを用いて文章、画像、映像などを生成することができるのが特徴。
ノーコード	ソースコードを書かなくてもソフトウェアやアプリ等の開発・作成ができる仕組みで、アステリアではWarp、Platio、Gravioがノーコード製品。プログラミング言語に関する専門知識がなくても手軽に取扱うことができる。
ノード	同じ目的や機能を果たすために分散して存在する機器や端末のこと。網状に存在し相互に通信し合いながら、大きな計算能力や堅牢性を担保することができる。非中央集権型アーキテクチャの構要素のことも指す。
ノードコンピューティング	クラウド型・エッジ型それぞれの利点を融合し、非中央集権型アーキテクチャを基本としながらシーンによっては集中管理も可能とする新たなコンピューティング形態。
ブロックチェーン	ビットコインの取引を記録する仕組みとして生み出されたデータ管理基盤。その構造により、一度登録されたデータは改ざんできないことが最大の特長。現在ではビットコイン以外にも多数のブロックチェーンが存在する。
ベンダーロックイン	企業や団体のシステム開発や保守において特定のIT企業 (Sier) に過度に依存してしまっている状態。
ライセンス販売	月額課金等で継続的な支払いが必要になるサブスクリプションとは対称的に、ソフトウェアなどを売り切り (一括支払) で販売する形態。



2025年3月期 通期決算説明会

お問い合わせ:03-5718-1655



LINEによるIRニュース

本説明会及び説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なる場合がありますことをご承知おきください。

(証券コード：3853)

